

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態																																
医療人間学	1	後期	2	講義 30時間																																
担当教員	足立智孝																																			
授業概要	医療・看護・福祉領域が、総合的で全体的な人間観を要請するようになり、人間をめぐる基本的問題、すなわち人間とは何か、人間はどのように理解されるべきか、人間の抱える苦悩とは何か、人間らしい医療のあり方とは何か、生と死をめぐる諸問題への正しい答えはあるのか等、具体的な問いへの人間学的な取り組みが改めて求められている。この講義では、文学の立場からの「ナラティブ」を通じた人間理解について修得する。																																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療ナラティブについて説明できる</li> <li>2. 病者の抱える諸問題について人間学的に理解できる。</li> <li>3. 人間の生と苦悩の多様なあり様を理解できる。</li> <li>4. 医療者としての自己を人間学的に省察できる。</li> </ol>																																			
履修条件	特になし																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクションーなぜ看護で人間学を学ぶのか</td></tr> <tr><td>2</td><td>ナラティブ・アプローチとは何か</td></tr> <tr><td>3</td><td>メディカル・ナラティブとは何か 1</td></tr> <tr><td>4</td><td>メディカル・ナラティブとは何か 2 (田嶋華子の場合)</td></tr> <tr><td>5</td><td>病者になるとは 1 : 柳澤桂子の場合</td></tr> <tr><td>6</td><td>病者になるとは 2 : 多田富雄の場合</td></tr> <tr><td>7</td><td>病者になるとは 3 : 鶴見和子の場合</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間課題発表ーケース・プレゼンテーション</td></tr> <tr><td>9</td><td>苦悩をもつとは 1 : 福島智の場合</td></tr> <tr><td>10</td><td>苦悩をもつとは 2 : フランクルの場合</td></tr> <tr><td>11</td><td>死に向かうとは 1 : トルストイの場合</td></tr> <tr><td>12</td><td>死に向かうとは 2 : キュブラー＝ロスの場合</td></tr> <tr><td>13</td><td>死に向かうとは 3 : 岸本英夫の場合</td></tr> <tr><td>14</td><td>人生ナラティブの作成とケア</td></tr> <tr><td>15</td><td>期末課題発表</td></tr> </tbody> </table>				回	内容	1	イントロダクションーなぜ看護で人間学を学ぶのか	2	ナラティブ・アプローチとは何か	3	メディカル・ナラティブとは何か 1	4	メディカル・ナラティブとは何か 2 (田嶋華子の場合)	5	病者になるとは 1 : 柳澤桂子の場合	6	病者になるとは 2 : 多田富雄の場合	7	病者になるとは 3 : 鶴見和子の場合	8	中間課題発表ーケース・プレゼンテーション	9	苦悩をもつとは 1 : 福島智の場合	10	苦悩をもつとは 2 : フランクルの場合	11	死に向かうとは 1 : トルストイの場合	12	死に向かうとは 2 : キュブラー＝ロスの場合	13	死に向かうとは 3 : 岸本英夫の場合	14	人生ナラティブの作成とケア	15	期末課題発表
回	内容																																			
1	イントロダクションーなぜ看護で人間学を学ぶのか																																			
2	ナラティブ・アプローチとは何か																																			
3	メディカル・ナラティブとは何か 1																																			
4	メディカル・ナラティブとは何か 2 (田嶋華子の場合)																																			
5	病者になるとは 1 : 柳澤桂子の場合																																			
6	病者になるとは 2 : 多田富雄の場合																																			
7	病者になるとは 3 : 鶴見和子の場合																																			
8	中間課題発表ーケース・プレゼンテーション																																			
9	苦悩をもつとは 1 : 福島智の場合																																			
10	苦悩をもつとは 2 : フランクルの場合																																			
11	死に向かうとは 1 : トルストイの場合																																			
12	死に向かうとは 2 : キュブラー＝ロスの場合																																			
13	死に向かうとは 3 : 岸本英夫の場合																																			
14	人生ナラティブの作成とケア																																			
15	期末課題発表																																			
教科書	柳澤桂子『認められぬ病』、多田富雄『寡黙なる巨人』、V.E.フランクル『夜と霧』、トルストイ『イワン・イリイチの死』、岸本英夫『死を見つめる心』																																			
参考書	アーサー・クライマン『病いの語り』、ジョイス・トラベルビー『人間対人間の看護』、野口裕二『物語としてのケア』																																			
評価方法・基準	中間課題：ケース・プレゼンテーション(40%)、期末課題(40%)、教科書レポートおよび討議への参加状況(20%)																																			
事前・事後学習	事前学習：各回に配布する資料あるいは教科書を指示するので事前に準備する(90分)。事後学習：授業内容の振り返りをする(60分)。																																			
備考	特になし																																			